

投資信託入門

1. 投資信託は私の資産運用に合っている？

「投資信託」があなたに合ったものなのか、ちょっと立ち止まって確認しましょう。5つの質問に答えてみるだけです。ひとつずつ、ご自分でチェックしてみましょう。

Q1 投資信託とは、多くの投資家からお金を集めて、資産運用の専門家が株や債券などに投資・運用をし、その収益を投資家に分配する仕組みの、元本保証のない、損をすることもある「投資商品」であることを知っていますか？

投資信託は商品ごとに、何にどう投資をするか(投資対象や投資方針)が異なります。投資家がそれらを確認したうえで、自分にあっている商品かどうかを決める、いわば“プレタポルテ型の投資商品”であることを、最初に理解しておきましょう。

もし、仕組みの理解に不安がある場合は、まずは、(社)投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp>) や同協会が無料配布している『投資信託ガイド』を入手して、理解を深めたいうえで、購入すべきかどうかを検討しましょう。

Q2 投資信託には「基準価額」という値段があり、それが日々変わることを知っていますか？

投資信託はいろいろなものに投資をしています。日本の株式や債券に投資をするもの以外に、上場不動産投資信託に投資をするものもあります。また、最近では海外の様々な国や地域に投資する商品も販売されています。投資をしているものの日々の価格の動きによって投資信託の日々の値段(基準価額)も上がったり下がったりします。

商品によって投資対象や投資方針が異なりますから、基準価額の動きも商品によって異なることを認識しておいてください。

「基準価額」がどのようにして算出されているのかを(社)投資信託協会のホームページや『投資信託ガイド』で確認しておくことをお勧めします。

Q3 投資信託という金融商品を作り、運用をしているのは販売会社ではなく、投資信託会社だということを知っていますか？

投資信託の運用を行っているのは投資信託会社です。投資信託を販売する販売会社は投資信託会社と販売契約を結び、販売とアフターフォローの窓口を担当しています。

Q4 資産運用に回したいと思われるおカネは、いつ頃、取り崩して使う予定のものですか？ 考えてみてください。

基本的に、投資信託は中長期の資産運用のために利用すべき金融商品といえます。もし、2-3年の近い将来に使う予定があるおカネならば、投資信託での資産運用を避けるか、振り向けるおカネの割合を低く抑えましょう。

Q5 そのおカネが、家計の金融資産（預貯金や投資信託、保険などの合計額）に占める割合はどれくらいですか？

資産や年齢にもよりますが、一般的に、株式や投資信託のように価値の変動するものへの投資額は家計の金融資産の3分の1以内におさめるべきと言われています。

家計には通常的生活費以外に、突然の出費も発生するものです。何らかの理由で収入が中断することもあり得ます。そういった用途のおカネを確保したうえで、投資信託の購入には、できれば10年後、20年後といった中長期間置いておけるおカネを振り向けるべきでしょう。

★★★

フォスター・フォーラムからのメッセージ

私たちは、よい投資信託を選んで、長期にわたって一定額をコツコツと買い増すことが、資産形成に結びつく賢い買い方だと考えています。

★★★

【フォスター・フォーラム 良質な金融商品を育てる会】

フォスター・フォーラムは、自立した暮らしに欠かすことができない「良質な金融商品」を育てることを目的に、金融サービス提供者、行政、個人、消費者団体等に向けて、様々な提言や情報発信を行っています。

設立：2004年（平成16年）11月

主な活動：金融商品・サービス、金融に関わる制度・法律に関する調査・研究・出版・翻訳・教育、その他。

ホームページ：<http://fosterforum.jp>

★★★

当資料の正確性については万全を期しておりますが、当情報に基づく判断については、利用者の責任のもとに行うこととし、フォスター・フォーラムは、これにかかわる一切の責任を負うものではありません。